

# アメリカ食は早死にする

—ハンバーガー・フライドチキンはおやめなさい—



地球環境問題評論家  
船瀬 俊介

●現代、人類の最大不幸は「食べまちがい」です。

その元凶は、近代栄養学にありました。その最大犯人は“栄養学の父”と称えられるフォイト（ミュンヘン大教授）。

動物食を礼讃し、澱粉食を否定した狂気の栄養学。

たんぱく質は1日48gで十分であることを知りながら118gも推奨した。

肉食礼讃はドイツの食肉産業、軍部の要請にかなったもの。肉食で体質は酸性化し、兵士は凶暴になる。フォイトとその弟子たちは、この“戦場の栄養学”を近代栄養学として全世界に広めました。

その最悪の食生活がアメリカン・フードです。アメリカ食の過ちは

■高カロリー、 ■高たんぱく、 ■高脂肪、 ■高精白、 ■高砂糖

の“五高食品”。そのルーツは近代栄養学の出発点にあったのです。

私は近刊『アメリカ食で早死にする』（花伝社）で、その虚妄を暴きました。軍事大国アメリカは、別名“デブの大国”です。目の眩む病人大国であり、いずれ医療費の爆発で滅びるでしょう。酒池肉林のかぎり尽くしたローマ帝国末期を思わせます。その国家的危機に警鐘を鳴らした『マクガバン報告』（1977年）も食品・医療・マスコミ利権により抹殺されました。その後『チャイナ・スタディ』（1983～）も闇に封印されたのです。

『アメリカ食で早死にする』は、この2大報告を復活させ、さらに石塚左玄らによる日本古来の「食養論」を称揚しています。とりわけ『チャイナ・スタディ』の「動物たんぱくこそが史上最悪の発ガン物質だった」という証明は衝撃的。

動物たんぱくを10%から20%に増やすと植物たんぱくより8倍もガンを増殖させる！

さらに、アメリカ男性の心臓マヒ死は中国人の17倍、女性の乳ガン死は5倍……。

そして病院に行けば、今度はクスリで殺される。（拙著『クスリは飲んではいけない』徳間書店参照）

つまり、現代人類は教育（狂育）と報道（呆道）により“餌付け”“薬漬け”され、虐殺されているのです。ムシケラ以下の惨状に早く気づくべきです。（了）



船瀬俊介先生 著書

左から ●『アメリカ食は早死にする』

花伝社 定価(本体1600円+税)

●『クスリは飲んではいけない!?!』

徳間書店 定価(本体1600円+税)